



海軍中將正四位勲二等男爵有地品之允位階進級

、件

右謹テ裁可ヲ仰ク

明治三十三年五月五日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋

七

内

閣

内閣總理大臣 第七五號

明治卅三年五月 日

内閣書記官

内閣總理大臣

代 奏

内閣書記官長 安部

海軍中將正四位勲二等男爵有地品之元、明治六年十月海軍少佐任官以來軍務に従事スル二十有餘年殊ニ廿七八年戦役ニ際シ吳鎮守府司令長官ノ職ニ在リテ出帥ノ任務ニ従事シ績テ常備艦隊司令長官ノ職ニ轉シ聯合艦隊司令長官ノ職

ニ充テラレ專ラ臺灣方面ニ在テ指揮操縦ノ任ニ當リ能ク其重任ヲ尽シ功勞顯著タルニ付目下豫備役ノモノニハ更得共在職中ノ功ヲ録セラレ茲際特旨ヲ以テ位一級被進然ルニ可哉

海軍中將正四位勲二等男爵有地品之元

特旨ヲ以テ位一級被進

正四位勲二等男爵有地品之元

叙從三位

海軍中將正四位勲二等男爵有地品之允

叙從

三位

奏ス

明治三十三年四月十九日

海軍大臣山本權兵衛



海軍

第一〇〇號

有地海軍中將ハ明治六年十月海軍少佐
ニ任ヒラレ爾來現官ニ歴進スルマテ各艦船廳
ニ職ヲ奉スルコト二十有餘年其間明治十年
唐兎島逆徒征討ニ関シ該地ニ出張戰闘
ニ從事シ以未明治二十五年十二月ニ至リ海
軍中將ニ累進シ兵鎮守府司令長官ニ補
セラレ二十七八年ノ戰役ニ際シテハ同府ニ在リ之カ
出帥ノ任務ニ從事シ續テ二十八年五月常備
艦隊司令長官ノ職ニ轉シ聯合艦隊司令長官
ノ職ニ充テラレ事ヲ臺灣方面ニ在テ指揮操
縦ノ任ニ當リ能ク其重任ヲ尽シ其功績顯著タル
者ニ付目下豫備役編入ノ者ニハ候得共在職中

海軍

ノ功績ニ依リ此際特ニ位一級進ノラレ度別紙上奏
書進達ス

明治三十三年四月十九日

海軍大臣山本權兵衛

内閣總理大臣侯爵山縣有朋殿

